

「の盟同實現たけ付り賣に社會を團議爭電王

陰險なる裏切り行爲の真相を曝露す

王電爭議團を會社に賣り付けた現實同盟

幹部の裏切り行爲の真相を發表す

既報の如く

市電自治會王子支部は従業員は待遇改善五箇條を従業員大會の決議として會社に提出したのである然るに會社は何等の理由を示さずして自治會王子支部代表者十名の徹首を行ひ更にその理由を詰問したる代表者六名に對して出勤停止を命じたのである茲に自治會王子支部は自治會本部並に各支部に懇請を求めこの會社の不當解雇及びその暴舉に對して徹底的抗争を開始したのである、闘争は本部及び各支部の熱烈なる支持と應援の下に著々と展開したので更に沿線住民者君が日頃會社の不當なる電燈料金の強迫電氣設備の不健全等の爲めに擧げた會社に對する反抗は抑えずして従業員要求と一致し闘争は従業員側にも有利に展開したので會社はこの形勢に屈辱狼狽の結果従業員側に秋波を送り御用を勤めつゝある岡正巳 秋田徳一並に現實同盟幹部 柳澤源三郎 遠山俊彦等と共に謀の上争議切崩の陰謀を企てたのである。

十二月六日岡正巳、柳澤源三郎、遠山俊彦等は表面積極的應援するが如き態度を装ひて争議本部を來訪した。そうして争議内部の状況をスパイして會社に報告したのである。

岡正巳、柳澤源三郎一派は争議の結束以外に強固にして更に各支部の應援日を遂つて熾烈なる情勢に色を失つたのだ。資本家の犬、大岡正巳、柳澤源三郎、遠山俊彦、秋田徳一等は早速この状況を會社に報告したのである會社はこの情勢報告に恐怖戦慄の結果従来の正式従業員には面會を拒否することにしたのである。そして即ち、集會場仲長谷川料理店に於て彼奴等現職同盟一派と社會黨人今泉小半等は會合の上徹底的に切り崩しの具體的方策として左の方針を決定したのである。

一、十二月七日午後五時八百長的に本社に於て岡正巳 秋田徳一伊藤市太郎等と會見の形式を取る事
二、嘆願書は自治會王子支部提出のものの中、一項を削除し會社の意志通りになる勞働組合を承認する一項を加へる事
三、嘆願書の中經費を要するものは考慮の言葉に依つて誤間化す事

四、敵首者に對しては涙金を出す事

以上の申合せをしたのである、而して十二月八日午前十時を差屆かりで同當日と定め前記の妥協案を正式に協定成立したるが如く其の會社側が發表することに、驚め筋書を定めたのだ。

爭議取引の場前は決定の筋書通り進行したのだ。そうして現實同盟が共同闘争で撤退したので云々と従業員に宣傳するため、豫め宣傳ビラまで作製して配したのである。

更にそのみではない、十二月八日従業員は最後の態度を決定する爲め町屋 島崎演藝館に於いて従業員大會開催中の隙を奇貨として事務中の従業員を強制的に出張所二階に暴力團立會の下に進行し無理やり暴力的行爲や脅迫的言辭の中に妥協案承認の強制調印を強要したのである。更に驚く可き事實は現實同盟の一味は會社の常務取締役前東京市電共済組合長小平保三より酒肴料若干を頂戴の上一杯饗應にて約二十名程の暴力團を動員して來たのである、そして御馳走酒の勢ひに乗じて従業員大會を混亂せしめんと會場を策動したのである、然し乍ら餘りにも見すいた八百長振りと裏切り行爲に今従業員は憤激し嘲笑の中に追返したのである。

以上は確實なる證據を根據としての真相である

更に吾等はこの反動團體の定評ある勞働總同盟加盟組合である岡部電氣會社に於ける勞働組合の如く勞働者の首を労働者が敵首する事を平然として行ふ奇矯なる御用組合と現實同盟の本質が完全一致してゐる事を今回の王電爭議を通じて目前に見せ付けられたのである。

この事實こそ一體何を物語るものであるか、これ明かに行き結れる商業資本家が自己の地位を維持する爲め唯一の手段として労働者を発生せしめ、而して一部の労働者を自己の手先として多數の労働者を永久に貧窮奴隷の鎖鎖に繋ぐ陰謀以外の何物でもないのである

反動團體現實同盟をぶつ倒せ
労働官僚を徹底的に葬れ

昭和二年十二月九日

自治會王子支部